



第35回会員交流懇親、誕生会・歓迎会

8月26日(日)第35回交流懇親・誕生会とJICA派遣自閉症児教育指導専門家、三枝(さえぐさ)たか子先生(盛岡出身)の歓迎会が午前11時半から行われた。

多田マウロ副会長の司会により先亡者への黙祷、千田会長から県人会活動への謝辞があり、三枝先生の自閉症について挨拶、自閉症教室青空学級責任者矢野医師のポルトガル語での挨拶があった。

続いてビデオ・達増拓也知事の県人会へのメッセージを放映し会員へ伝えた。この映像は先頃岩手を訪問した畑勝喜氏が取材したもので氏から取材についてのエピソードが披露された。

この後、岩手県人会の太鼓「雷神」が日頃の練習成果を4曲披露し参加者の喝采を浴びた。

宴の乾杯はスザノ市から駆けつけた長老藤堂勝次氏(93才)の元気な発声によって行なわれ、会員持ち寄りの料理で昼食会が始まった。

ビンゴが青年部により一喜一憂のうちに終われ、5月から8月生まれの会員の誕生会ではケーキを囲んで祝い、会から心づくしの記念品が贈られた。

閉会を前に全員で「北国の春」を合唱し午後3時すぎ閉会した。

因みに参加者は約100名で、邦字紙2社の記者たちが熱心に三枝先生、矢野医師に取材を行っていた。また、三枝先生の自閉症教育に関する講演会を当会で行う案も出され検討することになった。



行事の予定

★「ヤキノバまつり」

10月21日(日)午前11時より
岩手県人会太鼓グループ「雷神」では、太鼓保全及び活動資金捻出のため「ヤキノバまつり」を行います。どなたでも参加出来ます。

飲物や「ギョウザ」もあります。
前売券 R\$ 6.00 当日券 R\$ 7.00

★「三陸うどんまつり」

11月11日(日)午前11時より
昨年の「食まつり」は「ざるそば」を提供しましたが、今回は美味しい「三陸ワカメうどん」を味わって頂きたい企画致しました。

飲物や「ギョウザ」もあります。
前売券 R\$ 7,00 当日券 R\$ 8,00

留学生・研修生募集

2008年度県費留学生・海外技術研修生を募集しております。希望者は早めに県人会まで申し込み下さい。

県人会創立50周年の募金お願い

県人会では来年6月達増拓也県知事をお迎えして「創立50周年記念式典」を開催しますが、式典関連費用捻出募金運動を行っています。

この為近く、式典関連事業計画書、銀行振込用紙(一括払い、分割払い)を添えてお送りしますのでご協力をお願い致します。

何かと厳しい世の中ですが、会員皆様には最低額300レアイスのご協力を頂きたく思いますので宜しくお願い申し上げます。

尚、近く母県関係者はじめ海外県人会皆様へ正式な招待状を発送いたします。

式典費用協力者名(敬称略)

亀ヶ沢梅吉(300)、亀ヶ沢アメリカ(300)、千田曠暁(3000)、高橋凡児(2500)、藤村光夫(2500)、村松弘一(2500)、多田孝則マウロ(2500)、伊藤春野(2500)の諸氏から協力の申し込みがありました。

カウントダウン

創立50周年

まで **09** ヶ月

☆創立式典関連日程 2008年6月

- * 14日(土) 慶祝団歓迎前夜祭
- * 15日(日) 50周年記念式典、記念祝賀会、岩手芸能公演(民謡・民舞)
- * 16日(月) 第2回海外県人会サミット
- * 17日(火) 移民の父「第3代駐伯日本国杉村済公使」墓碑改修・披露式(リオ・デ・ジャネイロ、移民100周年特別事業)

「芸能使節団」の皆さん方には、式典公演後福祉施設慰問や地方都市公演予定。「会館機能推進事業」設備の整備、備品の補充など。

フェスティバル・ド・ジャポン大盛況！



うどん晴れのポスター

第10回フェスティバル・ド・ジャポン（日本まつり）が県連主催（ブラジル日本都道府県人会連合会）で、7月20日から22日にかけてイミグランテ（移民）街道沿いの「州農務局イベント会場」で行われ、約16万人の入場者があった。

今回は「郷土料理」を一品は出して欲しいとの主催者側の

要請もあり各県自慢の郷土食を用意。岩手県人会は、21日22日と参加し例年の餅料理や白餅に加え「三陸ワカメうどん」「ギョウザ」を用意したが、ブースにも長蛇の列が出来、対応にテンテコ舞だった。

うどんは日本人の味をとダシに凝った。うどんの出品は初めて

であり、何食用意したら良いのか見当がつかず90食用意したが初日午前11時には売り切れで、急遽追加仕入れにまわった。

因みに販売した食は、ギョウザ975皿、うどん395杯、白餅242袋、餅料理254杯、飲料などを加えた売り上げは昨年以上であった。



岩手県人会郷土食のブース

今回食のブースは51の団体が参加（43県人会）。多くの来場者が郷土料理を味わった。

県人会では岩手の宣伝にとNHK朝ドラ「どんと晴れ」のポスターを県庁に送付を依頼、ブースに展示した。

2日目には15ヵ国から集

ふっさと便利

「どんと晴れ」効果大



お盆期間中交通機関（主要4線区）や高速道路を利用した観光客など例年より多く、北東北大型観光キャンペーンやドラマ「どんと晴れ」の効果、さらに期間中の好天も加わり県内への観光客が増加したとみられる。

またドラマの放送で民話の里「遠野方面」への観光客も増えた。

また、盛岡三大麺の売れ行きが好調「じゃじゃ麺」はドラマの効果もあり観光客が殺到。じゃじゃ麺店では1時間待ちの列も出来るほど。「わんこそば」や「冷麺」にもプラス効果が出、また「あやかり関連商品」も好調だと云う。



じゃじゃ麺



カッパ伝説もある遠野の小川



岩手紹介のポスター

まった「海外・汎米日系人大会」の参加者も来場。「国際カラオケ大会」も会場で行われ、日本まつりの規模に驚いていたと云う。

食のテーブルでは多数のブラジル人も箸を器用に使い美味しそうに日本の食文化を堪能していた。また、食の広場はスポンサーである銀行群が参加。一方広大なパビリオンには中央にトヨタ、ニッサン、ホンダなど車が展示され、多数の企業やパザールが出店した。

各県のポスターも展示（日本の美を紹介）、広い会場も来場者で賑わっていた。



大勢の人々で賑わう食のコーナー

芸能にはコロニアの芸達者や日本からの歌手、中平マリコ、井上祐見、初めての上原静さんなどが歌謡ショーを披露。日曜の午後岩手の太鼓「雷神」が出演、大喝采を浴びていた。また太鼓はパビリオン内でも披露、観客にも参加させ太鼓の醍醐味を体験させていた。



岩手県人会の雷神太鼓



ALFAINTER TURISMO LTDA. アルファインテル南米交流

SÃO PAULO - BRASIL
Rua Américo de Campos, 47A - Liberdade
São Paulo-SP - C.E.P.: 01506-010
Tel.: (11) 2187-8989
Fax.: (11) 2187-8999
e-mail: sao@alfainter.com.br

TOKYO - JAPAN
Daishin Bldg, 6F, 3-8-6, Shimbashi
Minato-ku, Tokyo 105-0004
Tel.: (03) 5473-0541
Fax.: (03) 5473-0540
e-mail: info@alfainter.co.jp

- 7月**
- 2 新賛助会員沼崎喜一氏(山田町長)から入会申込書の送付あり。
 - 3 県国際課北橋主査よりベレン県人会についてメール。
 - 6 サンパウロ新聞に「読書ファンに人気の岩手文庫」「増える本寄贈の協力者」と記事掲載あり。
 - 7 故・三上良三氏、長男良博氏より家族揃って故人の49日法要を行った。ネットで「読書ファンに人気の岩手文庫」を見て故人の意思が脈々と生きていて感じているとのメール受信。返信す。
 - 12 吉田恭子さん国際課へ向う、県人会依頼のドラマ「どんど晴れ」ポスターの依頼と50周年について担当者と懇談されたとのメール。
 - 13 三味線抱えて世界一周中の鈴木徹君より葉書で、現在インド(58カ国目)に滞在中との報告あり。
 - 14 県庁より「どんど晴れ」ポスター、他の送付あり。
 - ☆ 定例役員会開催 フェスティバル、会員交流懇親会、会員親睦慰安温泉旅行、創立50周年、杉村公使墓碑整備、その他。
 - 16 新潟沖中越地震に対し関係県人会にお見舞いをFAX。
 - ☆ 従来のパソコン不調のため、新パソコンを導入。
 - 17 国際課矢羽々優主事より県人会50周年、移民100周年についての問い合わせあり。返信す。
 - 19 国際課の北橋主任と矢羽々主事からメール。返信す。
 - 20 アスンション県人会武藤会長よりTAM航空機事故安否についてメール受信。返信す。
 - 21 } 「第10回フェスティバル・ド・ジャポン」(県連主催)が州農務
 - 22 } 局展示場で開催され大盛況であった。
 - 25 県より定期刊行物受領。
 - 26 県連代表者会に千田会長出席。
 - 28 三重県人会西徹前会長の葬儀に菊地名誉会長、千田会長出席。
- 8月**
- 1日 遠野の佐々木栄洋(賛助会員)より、留学生町田のりこさ

- んの記事(岩手日報)がメールであり。
- 7 県国際交流協会の坂本事務次長より賛助会費を2日付けで送金手続きをした知らせと日報記事あり。
- 8 会報152号を会員、賛助会員、県全市町村、県関係者、海外県人会などへ発送。
- 10 リオの鹿田氏より県人会の依頼を検討する旨のメール。
- 11 杉村延宏先生より公使の墓改修について返信あり。杉村新先生から遺族へも連絡している旨の連絡あり。
- ☆ 定例役員会議議題 第10回日本まつり報告、会員交流懇親・歓迎会、県人会50周年、温泉旅行、他。
- 13 金ヶ崎町より広報7月号受領。
- 19 静岡県県人会創立50周年式典に会長夫妻出席。
- 21 サンパウロ新聞に「県人会来年の50周年に達増知事を迎え祝典に全力を」と記事あり。関係者に配信。
- 24 稲垣ニッケイ新聞記者杉村新氏について取材に来所。
- ☆ 県へ資料として新聞記事を発信。
- 26 第35回会員交流懇親会・三枝たか子先生(自閉症教育専門家)歓迎会開催。約100名参加。
- ☆ 山口県人会80周年、千葉県人会50周年にご祝儀を届ける。
- 27 増田寛也前岩手県知事、安倍改造内閣に民間人として総務大臣に入閣。祝電を発信。
- ☆ 武藤アスンション会長より高橋勇一郎氏(長野県在)の住所問い合わせあり。返信。
- ☆ 花巻市の高橋典克氏(賛助会員)より50周年募金について問い合わせ。遠野市の佐々木栄洋氏(賛会)より「岩手の歴史」(本)を送付した、その他について受信。
- 28 坂本県交流協会事務次長から鈴木直志氏より会費納入の知らせ。
- 29 リオ州100周年委員会牧田氏から杉村公使墓碑改修台座部分の見積もりをFAX受信。
- 30 県連代表者会に千田会長出席。

寄付・寄贈(7・8月)敬称略

佐々木 憲輔 お茶菓子
 三枝 たか子 2万円(324レアス)
 図書利用者多数 お茶、菓子など
 杓田 美代子 ウイスキー1本

会費納入者名(7・8月)敬称略

阿部正司、阿部孝史アイレス、宮田村上クキコ(2006・2007)、村松弘一、岩船和子、岩船孝行マルセロ、野崎豊美、渡辺剛一、岩淵克己(2006・2007)(累計143名)

賛助会費納入者名(敬称略)

鈴木直志

★「ブラジル岩手県人会賛助会費」のご納入先は下記へお願い致します。
 郵便振替 口座番号 02260-0-39490
 加入者名 財団法人岩手県国際交流協会

「お詫び」8月の会報は諸事情により、9月発行と併合となりましたのでご了承の程を。前回会報も遅れたことをお詫び申し上げます。(編集部)

「図書寄贈」(敬称略) 稗貫慶朋-6冊、宮城義晴-1冊、橋本敏郎-14冊、渡辺忠(イグアス)-52冊、渡辺敏郎-8冊、阿部正司-8冊・ビデオ-27本、坂本秀雄-178冊、鈴木寿-321冊、藤木てる子-10冊、横山幹-12冊、野崎豊美-5冊・雑誌多数、菊田誠-6冊、宇佐美克己-2冊、矢野純一-5冊、宮田昭夫-1冊、寺田若月-3冊、松井清二-12冊、岩松求-6冊、野見山幸代-3冊、(計701冊) 沢山の図書寄贈ありがとうございます。

県人会図書利用

7月 226名 877冊
 8月 225名 981冊



お知らせ

★「変更」県人会ファックス番号はTel/Fax 併用となりました。

3207-2383 を呼び出して下さい。

★「ポルトガル語教室」宇佐美克己先生が県人会教室でポルトガル語を親切丁寧に教えております。

申込み詳細は宇佐美さんへ 電話 5016-5534
 携帯 9990-4723 へ。

★「日本語教室」母県から教材の提供を受けた県人会では、多田マウロ(県人会副会長)講師により4月から毎週土曜日午後2時から3時まで授業を行っている。現在の生徒は7名で講師も生徒も日本語を真剣に、また楽しみながら、会話、カタカナ、ひらがな、を学んでいる。会報や新聞記事或いは人づてに伝わったのか、他県人子弟やブラジル人から日本語を学びたいとの電話があります。が、現在は県人子弟だけであることを話し丁寧に断っております。多くの県人子弟に日本語を学んで将来は留学生、研修生への応募を期待。岩手で学んだのち県人会活動に参加して頂きたいと思ひます。

父娘二人旅

文 知勝喜・カメラ 知カリナ真樹



「平家茶屋」から見た大型船が行き交う関門海峡と若戸大橋

「北九州・周防灘へ」

成田に着いた翌日、私たちは朝の便で北九州へ飛んだ。窓外を見ると、一面に雲海が広がり羽田空港で受けたマキさんの折角の好意も無になるかと思われた。

「あっ、富士山が見えた!」飛行機は山中湖の上空辺りを飛行中らしく、太平洋側から迫っていた雲が富士山頂に引掛かっており、その為、飛行機から見える山梨県側は雲一つない晴天である。

「あの山頂に立ったなんて、信じられない!」窓外に目をやりながら、娘がつぶやいた。

娘は、以前東京に留学していた時に、仲間と共に富士登山をしているのだった。

あきらめかけていた時に突然姿を現した富士山（写真は前号に掲載）。

八合目あたりまで真白な雪におおわれ、その下は青色に見える山肌。更に裾野に緑の樹海が広がり、いつ見ても、どこから見ても富士山は美しい。こういう時に今、自分が日本に帰っていることを実感する。

私が北九州へ向かったのには、次の二つの目的があった。一つは北九州市の古刹光円寺に井上博厚住職を訪ねる事。そして、もう一つは平家が滅亡した壇ノ浦古戦場跡を、この目で見る事である。

先ず井上博厚師と私の関係だが、1996年、サンパウロ市で開催された南米仏教婦人会大会の撮影がキッカケで、親しいお付き合いが始まったお坊さんである。当時本派本願寺派（西本願寺）の南米開教総長として、ブラジルはもとよりアルゼンチン、パラグアイ、そしてアンデスを越えてペルーに迄布教の輪を広げ、文字通り東奔西走の実に多忙な日々を送っていた方である。人間味に溢れ、行動力に満ちた“総長”で、この間、私も同行し数多くの作品を作らせて頂いた。今回の旅では是非お会いしたい人なのだ。

前日、東京からお寺に電話したところ。師は不在だったが空港からエアポートバスで西鉄のバスターミナルまで来てくれれば、そこまで車で迎えに行く。という話であった。

やがて眼下に瀬戸内の青い海と、そこに浮かぶ大小の島々。そして、対岸四国の沿岸までが、まるで箱庭の様に良く見える。

12世紀頃には、この狭い海域で源氏と平家が戦っていたのである。そして、周防灘上空に入った飛行機は高度を下げ、1時間40分のフライトで空港に着陸したのだった。

2005年3月に完成した新北九州空港は、海上空港で海の上から滑

走路に入るところやバックに山並が連なる風景は、海上空港ではないが何となくリオのサントス・ズモン空港を思わせる。

私も初めての空港である。どこにエアポートバスの発着場があるのだらうと思い乍ら手荷物受取所に行くと、仕切りガラスの向こうで井上師がニコニコして手を振っているではないか。全く予想してなかったので、すっかり嬉しくなってしまった。

外に出るとターミナルビルに隣接して1,500台が収容出来る広大な駐車場がある。

車はやがて空港と陸地を結ぶ3Kmにおよぶ長い橋を渡る。そう、あの周防灘の海上の上を走っているのだ。油の中にコバルト・ブルーの液体を溶かした様な静かな海。そしてまるで静かな空気。平和な風景がそこに広がっていた。

ご住職がケイタイで話をしている。「お客さんが増えたので、全部で4人という事で...。30分程で着きますので...」。どうやら昼食の打ち合わせのようであった。

「本音と建て前」

外国に住んでいる私達が、日本で戸惑うものの一つに“本音と建て前”がある。日本の方とブラジルの空港で別れる際「日本へ来たら是非寄って下さい」「美味しい地酒の店へ行きましょう」その他いろいろなお誘いを受けるが、訪ねても迷惑そう。単なる外交辞令なら云わないで欲しい・・・

と思う。日本の前首相ではないが「出来ぬ事は云わない!」少なくとも“本音と建て前”に免疫のない日系人に対しては・・・である。

ところで“井上総長”はブラジル在勤中、「北九州にはワコゼという美味しい魚が居てね。畑さんが日本に来たら御馳走するよ」とよく話していた。今の電話はそのワコゼの事だったので、私との約束を忘れていないでくれたことに私は感動してしまった。

車の運転は“井上総長”の姪の裕子さん。目元口元が絶えず微笑んでいる、物腰が優雅な人で「十二単（じゅうにひとえ）」を着せて写真を取ってみたい様な、若い美人ママである。

車は若戸大橋を渡って山口県の下関市に入り、急坂を下りると“史跡壇ノ浦古戦場跡”と刻まれた石柱が立ち、その後に海峡を望んで「平家茶屋」という料亭があり、そこで待望のワコゼと対面する事になるのだが、それにしても三つの望みが一か所で叶うとは、何とラッキーな旅の初日となった事か。これは井上博厚師の御配慮も勿論であるが、畑家のご先祖さま平田周防守がなされた事かも知れないと、私は心の中で感謝したのであった。



左から裕子さん、著者、井上博厚師

つづく



岩泉町

(www.town.iwazumi.iwate.jp より)

岩泉町は人口 12400 人、面積約 993 キロ平方メートルあり本州一広い町で、酸素の供給量は日本一と云われ、日本三大鍾乳洞の一つと云われる有名な龍泉洞があり湧き出る水は龍泉洞水として利用され、洞内は既に知られている所だけでも 2500 m 以上あり、現在も調査中でその全容は 5000 m 以上に達すると推定。その奥から湧き出る精水が数カ所にわたって深い地底湖を形勢。中でも第3地底は水深 98 m、第4地底は（未公開）

120 m と日本一で、世界で有数の透明度を誇っています。

町の「ふれあいランド岩泉」には、各種レジャー施設や体験農園やきのご園もある。

町は広大な山林に加え太平洋に面しており海の幸、山の幸の山菜・マツタケ等と共に豊かな食生活を満喫することが出来、加えて古くから酪農も行われ、岩泉産の乳製品や短角牛は広く知られている。



龍泉洞



水汲洞



安家洞